

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

ワークショップ実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 万作の会
公演団体名	万作の会

内容
<p>※本年度の実施については、実施校と相談の上、できる限りの感染症対策を取らせて頂きたいと存じます。マスクの着用、換気の徹底、場合によっては参加人数の縮小、時間短縮などでリスクを回避しつつ、可能な限り実施のご希望に沿っていきたくと考えております。</p> <p>★対面での開催がどうしても困難な場合、学校側で設備が揃っていて可能ということであれば、オンラインでの実施にも対応致します。この場合は、学校側の機材や、参加人数、実施場所が教室か体育館か等の状況に合わせ、下記の内容を中心にできることを行うことになります。</p> <p>ワークショップ(体験学習)では、日本の伝統芸能・狂言についての基本的な知識と、その表現技術について学び、鑑賞会(本公演)でプロの狂言師と共演する狂言「蝸牛」の囃子言葉と所作(動き)を身につけることを目標とします。始めに解説と実演で狂言に触れ、狂言師の表現技術を目の前で感じて頂きます。その後、伝統的な稽古方法にのっとりて狂言の基礎を体験し、実践的な理解を深めます。児童生徒・先生方は、体操服やジャージ等運動しやすい服装(スカートは不可)、靴下を履いた状態(上履きは脱ぐ)での参加をお願いします。(約 90 分、以下は順不同で行います)</p> <ol style="list-style-type: none">① 「狂言」の紹介…その歴史や特徴について解説します。② 実演(袴狂言「蝸牛」など)…お手本も兼ね、代表的な狂言の一部分を実演し、狂言師の表現技術を目の前で感じて頂きます。③ あいさつ…体験＝稽古の最初と最後に正座であいさつをし、学びの姿勢に切り替えます。④ セリフの体験…狂言の特徴的なセリフを学び、発声の基礎を体験します。⑤ 所作(動き)の体験…構エ・すり足、笑いをはじめとする喜怒哀楽の表現など、狂言の基本となる「型」による所作を体験します。⑥ 狂言「蝸牛」の共演場面の稽古…囃子言葉の謡と、謡に合せた「浮き」の型を稽古します。狂言に伝わる日本の伝統的な言葉・リズム、息を合わせての掛け合い、身体表現による発散の楽しさをまとめて体感することができます。 <p>質疑応答</p>

タイムスケジュール(標準)
<ul style="list-style-type: none">・開演 60 分～30 分前…学校到着。ご挨拶後、会場にて進行等の打合せをお願いします。・開演 20 分～10 分前…打合せ終了後、控室にて着替え等準備をさせていただきます。・開演…90 分予定でワークショップを行います(途中休憩の有無についてはご相談下さい)。・終演後…本公演の会場で、事務スタッフ・狂言師と本公演について打合せをお願いします。(スケジュールによっては、開演前に本公演の打合せをお願いする場合があります。)

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください

参加人数が 200 名くらいまでであれば、万作の会の狂言師 3 名で講師を勤めます。また事務スタッフ 1 名が同行し、ワークショップの準備・進行についての確認のほか、本公演に向けて会場・控室等について打合せをさせていただきます(事務スタッフを狂言師が兼ねる場合もあります)。

本公演の際には狂言師が学校側との連絡係を兼ね、学校の先生方とスムーズに連携できるよう準備をさせていただきます。

★オンラインの場合も、基本的には開催時間 90 分、指導者 3 名で実施します。短縮等の希望があれば対応いたします。

学校における事前指導

事前に、ワークショップの実施要項とともに以下の資料を学校にお送りし、生徒・児童への紹介をお願いしております。

- ・狂言ってどんなもの？～世界無形文化遺産「能楽」としての狂言～
- ・能舞台と、狂言の登場人物について
- ・講師のプロフィール

合わせて、派遣講師を含む万作の会の狂言師が出演し、狂言のエッセンスを取り上げている NHK-E テレの教育番組「にはんごであそぼ」や、万作の会が狂言レクチャー動画を配信している YouTube【野村萬斎@狂言ござる乃座】チャンネルもご活用いただきたく、ご案内しております。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書【コロナ対応版】

制作団体名	株式会社 万作の会
公演団体名	万作の会

演目
<p>【解説】「狂言を楽しもう」(約 20 分) ※ワークショップが事前に開催できなかった場合、共演体験の指導も解説中に行います。</p> <p>【鑑賞】狂言「盆山(ぼんさん)」(約 15 分)</p> <p>【鑑賞】狂言「附子(ぶす)」(約 20 分)</p> <p>【共演体験】狂言「蝸牛(かぎゅう)」より…囃子言葉の掛け合いの場面(約 20 分)</p> <p>※本年度の実施については、実施校と相談の上、できる限りの感染症対策を取らせて頂きたいと存じます。マスクの着用、換気の徹底、場合によっては参加人数の縮小、時間短縮などでリスクを回避しつつ、可能な限り実施のご希望に沿っていきたくと考えております。</p>

派遣者数 ※派遣者数の内訳を御入力ください
狂言師 5～6 名 舞台設営、進行の確認なども狂言師が致します。

タイムスケジュール (標準)
・11:00 搬入、舞台・楽屋設営(30分～60分)
・12:00 進行確認、食事・着替え等準備
・12:55 児童・生徒入場、導入
・13:00 上演時間 80～90分
・14:30 舞台・楽屋片付け、搬出(30分～60分)
・15:30 退出

実施校への協力依頼人員

- ・搬入開始までに、会場内の楽屋・舞台設営部分を中心に、スペース確保と清掃(特に床の乾拭き)を依頼。楽屋・舞台設営は狂言師が行い、鑑賞席の設営は学校側をお願いしています。
- ・机、椅子、姿見(鏡)、扇風機など楽屋で使用する物品についてご用意をお願いしています。
- ・開演時の導入、生徒指導については、お打合せの上学校側をお願いしています。
- ・公演、特に共演体験については、担任の先生はじめ出席の先生方も積極的に参加し、児童生徒とともに狂言への理解を深めつつ、授業を一層盛り上げて下さいますよう、ワークショップ～鑑賞会を通してお願いしています。
- ・鑑賞会にあたり、お花など記念品のご用意は不要です。終了後に、児童生徒さんをはじめ参加者の感想をお送りいただければ大変有難く存じます。

演目解説

・【解説】「狂言を楽しもう」

狂言という日本の伝統文化を知り、親しみを持って鑑賞に臨み、いっそう理解を深めて頂くため、狂言の歴史や特徴、上演演目の見どころについて解説を行います。また、共演体験する狂言「蝸牛」の囃子言葉と「浮き」の型について復習を行い、狂言に伝わる日本の伝統的な言葉・リズム、息を合わせての掛け合い、身体表現による発散の楽しさを確認し、本番につなげます。

・【鑑賞】狂言「盆山(ぼんさん)」

ある男が、流行りの盆山(お盆の上に風景を作った盆栽のような置物)を盗もうと、知人(何某)の家に忍び込むが、すぐに見つかってしまい物陰に隠れる。何某は隠れている男に、あれは人ではない、猿だ、犬だと言ってからかう。男は必死に動物の物真似をしてごまかそうとするが、最後に難問を出され…。

さまざまな動物の物真似や、パントマイム的な動き、見立て等、想像力を働かせて楽しむ、狂言の「型」による表現の特徴がよく出ている演目です。

・【鑑賞】狂言「附子(ぶす)」

太郎冠者と次郎冠者は主人に留守番を言いつけられる。二人は主人から、猛毒の附子が入っているので近づくな、といわれた桶の中身が気になって仕方がなく、何とか桶の中を見ようと知恵を絞る。ようやく中を見ることに成功すると、今度はそれを食べてみたいと太郎冠者が言い出して…。

とんち話でも有名な狂言の代表作で、教科書にも多く採用される名作です。「型」を使って人物の喜怒哀楽が豊かに表現される、親しみやすい演目です。

・【共演体験】狂言「蝸牛(かぎゅう)」の一場面

主人の命で長寿の薬になるという蝸牛(かたつむり)を取りに来た太郎冠者に、蝸牛と間違われた山伏が、蝸牛のふりをして太郎冠者とともに囃子言葉に打ち興じる場面を演じる。

児童生徒に、リズムに乗って囃子言葉を繰り返す「浮き」の型を繰り返してもらい、それに合わせて山伏役が「でんでんむしむし」の舞を舞います。日本の伝統的な言葉、リズム、息を合わせての掛け合いとともに、身体表現による発散の楽しさをまとめて体感できる演目です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

※私どもの共演体験は、参加者全員で息を合わせ、舞台に参加する感覚を共有することを重視して行います。舞台上の演者とは距離をとっていただき、参加者側はマスク着用で、客席間も距離をとり、換気を徹底しながらの鑑賞会開催が可能ですのでご承知おきください。

- ・しっかり見て聞いて真似をして学ぶ、という、狂言の基本的な稽古のあり方をワークショップ・鑑賞会を通して徹底し、先生方にも一緒に参加し、ご協力をいただきながら、きちんとできるまで集中して行う。
- ・補助講師はできるだけ生徒の中に入り、間近でプロの技術を見せ、表現にあたっての心持ちや、コツなどを伝授する。
- ・狂言の登場人物や物語には、古典でありながら現代人にも共感できる普遍性があることを児童生徒、先生方にも理解していただくため、解説は身近な例えを入れるなど工夫する。また、体験の際はゲーム感覚を取り入れ、プロの技術の凄さを楽しみながら感じ取れるよう、工夫する。
- ・担任の先生はじめ、出席する学校の先生や、見学の家族も巻き込むかたちで、率先して体験に参加していただき、児童生徒を盛り上げていただく。

児童生徒とのふれあい

- ・ワークショップ・本公演ともに、できる限り児童・生徒に近い位置で視線の高さを合わせること、また、一緒に体を動かすことを心掛けた指導を行う。
- ・解説の際は、一方的にならないよう、児童生徒に問いを投げ掛け、答えを引き出すかたちでの進行を心掛ける。
- ・可能な限り質疑応答の時間をもうけ、児童生徒の疑問に講師が直接答えるようにする。
- ・複数の講師が参加する利点を生かし、できる限り児童生徒の中に入り、間近で見本となる。